

## 活動状況報告（5月）

学生留学コース 5期生 酒井 友希

留学も最後の1ヶ月が終わりました。5月の日照時間は完全な白夜ではありませんが、日照時間が21時間で、太陽が沈むのは0時くらいに過ぎることが増えました。太陽が沈んでもまだ明るく、夜という感じはありません。そのため、夜まで何か作業しても捗ります。

ピュハスキーリゾートのサステナビリティプログラムのマネジャーにインタビューする機会がありました。ピュハが持続可能性を促進する取り組みや、経営者やマネージャの責任について話しました。

以下は主なポイントです：

### 【資源の保全と二酸化炭素の削減】

- ・列車を利用しての移動を奨励し、CO2 排出量を減らす。
- ・宿泊施設でお客様にエネルギーや水の節約を呼びかける。
- ・リサイクルを推進し、ポイ捨てを抑制する。
- ・再生可能エネルギー（水力発電、風力発電）の利用。
- ・カーボンニュートラルへの移行に課題があり、特に代替燃料について検討中。
- ・圧雪車の燃料を二酸化炭素の排出を90%カットできる燃料に変え、排出抑制が難しい場合はオフセットしている。将来的にはスノーモビルも電気で稼働するものを導入する予定。

### 【環境へのアクション】

- ・Protect Our Winters Finland (POW) などの団体と協力し、気候変動に関する意識向上と教育を行う。
- ・スキー場で気候変動に関するマーチを行ったり、ワークショップを開催する。
- ・環境への配慮をきちんと伝えることが重要。一部の過激な環境活動家によるエコ・バンダリズム（環境破壊行為）への懸念も高まっている。

### 【スキー場の運営責任】

- ・持続可能性を優先するスキーリゾートの道徳的責任。
- ・フィンランドではスキー場のランキングを決める際にサステナビリティの条件が考慮される。
- ・フィンランドのスキー場間での協力と知識共有。
- ・持続可能なスキー場を運営するためには、まず温室効果ガスの排出量を分析することが重要とされている。

インタビューの中で印象深い言葉がありました。

「雪や自然の恩恵で生活をしているのに、自然を配慮していない方法で運営している場合、毎日どうやって安心して寝るのか気になる。厳しい意見だが、多くの人にこの言葉を知ってほしい。」

サステナビリティ マネジャーの強い意志を感じるコメントでした。このインタビューは非常に参考になりました。これまでの留学生活でスキー場の取り組みを調査してきましたが、人々の意識の違いに気づきました。フィンランドの環境に配慮したスキー場モデルを知ることは重要ですが、個人が環境に配慮した生活を意識し、環境に配慮した政策や取り組みに賛同した

り、環境意識が高い方が多ければ多いほど環境に配慮した観光への大きな後押しになると思います。

環境意識などの話はヨーロッパのグリーン都市として選ばれた Lahti（ラハティ市）の友達の実家へお邪魔した際にも話しました。その友達は政治学の学生でフィンランドのグリーン党の青年部の団体リーダーをしています。たとえ、社会に対して大きな変化が起きないかもしれない、声を上げるのに知識が足りないと思っけていても声を上げ続けることを大事と話してくれました。

8月から始まった留学生活は、フィンランドや他の国の社会情勢について多くの学びを与えてくれました。この留学を支援して下さった企業や皆様、そして現地でサポートしてくれたラップランド大学の先生方、スタッフ、学生のおかげで、無事に留学生活を終えることができました。

今後は、留学を考えている学生を後押しし、就職後も北海道の観光業に貢献できればと思っています。留学は日本にいる支援者の方々やパートナーの皆様ののおかげで無事に終えることができました。この素晴らしい機会を提供して下さった「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の関係者の皆様にも心から感謝しています。



午前 1:00 家の近くの湖の小さい展望台から...





ヨーロッパグリーン都市に選ばれた Lahti  
の図書館で友人と勉強を。

フィンランドの図書館は本を読む事、以  
外にゲーム、映画そしてアウトドア用品  
まで借りられるのである。

街のシェア自転車→

電動式の自転車がよく利用されている。

冬はクロスカントリースキーが盛んである。



雪解け水で無くなるハイキングの道とトルクメニスタン出身の  
友達...。

